

親王様のお印に選ばれたコウヤマキ

今年 9 月 6 日にお生まれになった、秋篠宮家の親王悠仁様のお印に選ばれたコウヤマキ（高野慎）は、宮家にふさわしい日本を代表する植物です。島国日本には、この国にだけ生育している植物種（＝日本固有種）がたくさんありますが、その多くは近い仲間（同じ属や同じ科）の植物が日本以外の地域にも生育しています。が、コウヤマキは日本固有の 1 科 1 属 1 種の針葉樹です。つまり、日本にしかいなくてかつ世界中のどこにも似た植物がない、珍しい植物なのです。最近の DNA 塩基配列を用いた研究結果からも、コウヤマキは独立した科として認めるのがふさわしい、独自の進化を遂げた植物だということが確認されています。日本には約 5,500 種の高等植物が知られていますが、日本固有でかつ 1 科 1 属 1 種の植物といえば、コウヤマキとシラネアオイだけです。1994 年に横浜で第 15 回国際植物学会議が開催された際、記念切手が発行されましたが、その意匠題材にこの 2 種が用いられました。

コウヤマキは、老木になっても樹形が乱れないので、ヒマラヤスギ、ナンヨウスギと共に、世界三大美樹、又は世界三大造園木と呼ばれ、庭木としても人気があります。産地としては高野山が特に有名ですが、兵庫県では笠形山の山麓にある笠形神社に樹齢 500 年といわれる県天然記念物のコウヤマキがあり、六甲山にある神戸市立森林植物園の日本針葉樹林区でも見ることが出来ます。



写真 1：コウヤマキ
撮影：高橋 晃



図 1：第 15 回国際植物科学会議記念郵便切手
(左：シラネアオイ 右：コウヤマキ)

シラネアオイは、開花した固体と群落の様子、コウヤマキは、球果をつけた枝と特徴的な姿の樹形が描かれてあります。

(自然・環境評価研究部 高野温子)